

福島県PTA連合会会報
第75号_H20.03.07

PTAふくしま

第75号

福島県PTA連合会
編集/調査広報委員会
印刷/泉印刷所

親子学年活動の一コマ



平成19年度県P連 「活動スローガン」実践より



- 「親子で飛行機作り」(2年)
～小さい頃作ったことを
思い出すなあ～
- 「親子でお料理に挑戦！」
～さすがお母さん、お父さんも
がんばりました～

《主な記事》

広域的なPTA活動の充実 P2～3
親の目の届かないケータイの危険 P4
実施したアンケート P5
子どもの災害事故防止
習字・ポスターコンクール P4～5
事務局から P6

〔提供 川内村立川内小学校〕

楽観的な希望をもって



福島県教育庁社会教育グループ参事

日下部 文紀

少子化の影響で、今の日本は「ありあまる時間と関心を親たちが子どもに注いでやれる、豊かでハッピーな時代だ」と教育社会学者の広田照幸氏はいいます。しかし、その反面、親の果たす役割は長期にわたり、複雑なものになりました。親の苦勞は並大抵ではありません。昔は、あれこれ手をかけなくとも、子どもは一人前に育つという伝統的な考えがありました。十代の半ばになると親元を離れていたり、いっばしの社会人でしたから、凶悪事件を起こしても親の責任とは必ずしもみなされませんでした。

今は子どもの問題行動はしつづける責任だと、親だけを追い詰める見方さえあります。しかし、子育てに十分な配慮を払えない親はいつの時代にもあり、今も少なくありません。時間的・経済的余裕がないことや、家庭内の人間関係のもつれなどから子どもの面倒をよくみることができないのです。もつとちゃんとしるといったところで意味はありません。

子育てには人と時間と金が必要なのでは？ 恵まれた親ばかりとは限りません。だからこそ、親の生活基盤の安定を図る仕組みや子どもを預かるサポートシステムなど環境整備が大切だといわれているのです。

さて、子育ての経験を積むに従い、親の思い通りに子どもが育つわけではないことや親の影響力が限られていることを身にしみて知るようになります。家庭も親も様々であり、よその家で使っている物差しを自分の家では使えないのです。知恵をしばってそれぞれにふさわしい家庭を作る中で、様々な天分を持つ子どもを伸ばすことが大切です。

一様な家庭の理想像を押し付けたり、困っている親を脅かしたりしない、多様性を豊かに育てる社会こそ、成熟した寛容な社会といえるのではないのでしょうか。

そうした社会が必ずあるという楽観的な希望をもって、親を支える仕組みをつくる活動に、困難ではあっても努めたいものです。

県P連活動スローガン 子と親とが 共に育つ PTA活動を

広域的なPTA活動の充実

子どもたちの健やかな成長に向けて

地域で子どもたちの安全を見守ろう

郡山市立大成小学校PTA

岡部 美鶴

私は大成小学校PTA会長として、様々な団体にお世話になって

います。その一つに「おやじの会」があり、副会長として、活動に参加して

きました。PTAと「おやじの会」の連携がスムーズに行えるようにするのが、役割の一つと考えています。「おやじの会」は、もつと積極的に、父親がPTA活動や地域活動に参加できる環境を整え、様々な構成員により多方面からPTAとの連携とサポートしよう、という考えから学校との協議を重ねました。その時期に子どもの下校を見守るボランティア活動を行っていた団体の協賛を得て、活動することになりました。腕章を作成し、夕方六時頃に巡回を開始したのが最初であります。

構成員は、現役のPTA、PTAのOB・OG、そして同校の卒業生(中・高校生)となっています。主な活動として、昨年は、月二回土曜日の夕方を活動日とし、小

学校の敷地並びに周辺の巡回パトロールを実施しました。

また、ソフトボールを通して交流を深めるといふ活動も取り入れ、終了後の午後九時過ぎには、夜間のパトロールも行っています。父親達が地域を歩き、戸外の子ども達に声掛けをする事で、事故の未然防止や地域の犯罪の抑止力になるのではないかと考えています。

また子ども達の安全な学校生活実現のため、学校と協力し遊具の保守点検、塗装、側溝の蓋かけ、PTA本部役員の女性の協力を得て、体育館の暗幕補修並びにレールの補修を実施しました。

運動会では、準備や後片付け等の力仕事で、パワフルな父親の姿を子ども達に示すことが出来たのではないかと思います。

バザーでは、各学年のお手伝いや出店もし、父親達がスベアリブを焼きながら、本音を語り合



遊具の塗装作業をするおやじの会

来ました。

また、活動に参加しやすい様に、係分担を細分割したり、「おやじの会」の活動を実施した後に、子どもと共にバーベキューなどのイベントを行うなど、工夫しています。

こうして、父親達が顔を合わせ

る機会が増えることよって、子ども達の間でも、年齢を超えた付き合いが出来るようになれば、いじめや暴力的な行動も減っていくのではないかと考えます。

今後のPTA活動の課題として、なかなか参加できない父親を「おやじの会」の継続的な活動を通して、参加を促していきたいと思

地域の方々の支援を受けて

泉崎第二小学校PTA

近藤 祐二

本校は、県南に位置し、泉崎村内には小中三校(小学校二校・中学校一校)があり、田園地帯の恵まれた環境にある学校です。また、校地の敷地が広く、校地内が芝生や樹木で覆われ緑地帯が多く、年三回の一時間半以上に及ぶ奉仕作業で毎回会員全員の協力をいただ



名人の菊作りの指導

も多く、地域の力をたよりとしてい

ます。そんな地域には、子ども

の父

母や祖母など昔ながら定住している方が多く、代々地元出身の方で学校に対する理解・協力などの意識・関心が高いと言えます。

そこで、学校では、体験的な教育活動に対し、地域の方々の専門的な知識・技能等の支援・助言を数々受けています。それらを紹介したいと思

います。一つ目は、学校の畑や指導して

くださる方から借りた田で、畑作や稲作をしています。指導者は昨年まで本会会員でしたが、子どもが卒業した今も、全校生が農作物を育てる畑を畝ついでいただいたりマルチ

がけをしていただいたりなど、様々な協力をいただいています。また、五年生は田植えから収穫までの体験の支援を受けています。

二つ目は、八十歳になる方による六年生への菊作りの指導です。この活動は、卒業に向けての一つの活動で、代々六年生が受け継ぎ、秋に大輪の菊の花を咲かせ、学習発表会や村の文化祭に一人一鉢と

して出品する活動です。冬前にクヌギなどの落ち葉から土作りに始まり、春に菊の挿し芽、三本仕立て、わき芽取り、輪台つけ、そして、日々の水やりなど、一年間を通してがんばります。その活動を、細かく面倒をみていただき、指導・助言をいただいております。

三つ目は、二学期に学校の学習発表会や村で開かれる村音楽祭に参加するため、よさこいソーランの振り付けを五年生が指導していただいております。地元に入ってきた、元保護者(元PTA会員)の方の指導により、毎年趣向を凝らしたよさこいソーランのため踊りを変化させたりアレンジしたりしていただき、子どもたちが披露しています。

四つ目は、書き初めコンクールのための習字の指導を、地元で習字の塾を経営している方(元PTA会員)に、三年生から六年生までお願いしています。書き初めは普段の習字からすると、紙も大きくなり、字数もバランスもより高

度になるため、専門的な技能を有している方に、直接指導していただいております。この他にも、昔の遊び集会などいくつか地域の方々に指導やご支援をいただいておりますが、さらに、子ども

耶麻地区PTA活動の 充実をめざして

耶麻地区小・中学校PTA
連絡協議会会長
小島 雄 一

思春期真っ只中の今日の中学生の状況をいろいろ見聞すると、安心と不安の入り交じった複雑な思いが去来します。また未成年少女の墮胎率が福島県は全国トップクラスとの情報があり、思春期の青少年が真っすぐに育ちにくい社会の現状が見えてきます。国連の子どもの人権委員会が、日本政府に対し「日本の子育ての環境は劣悪である」と何度も警鐘を発していることが頭にオーバラップしてきます。

こうしたなか、青少年の最も近いところにいる親と教師の集まりである私たちのPTA連絡協議会は、少しでも状況を改善しようと取り組んでおります。

まずは昨年度の、連絡協議会の組織の改革です。子どもの育ちは連続なのに小・中のPTAの連携不足があったため、単Pを中学校区ごと七つの方部組織にまとめ、協議会→方部連P→単Pといった系統をもち、方部ごとのPTAの小中連携を持ちやすくしました。これは思春期の子どもの共通理解などに役立つと期待します。また時代の変化や子どもの変化

の速さにとり残されないうために今年度、協議会で教育講演会を実施しました。「ケータイ・インターネットの危険性について」の演題で、前茨城県PTA連絡協議会会長の堤千賀子氏のお話でした。主な論旨は、ケータイは、子どもには携帯電話でなく携帯できるパソコンの端末機であり史上最強の遊び道具であること、このネットサイトが子どもに規制なしなのは世界で日本だけであること、わが子に持たせる時がきたらメーカーや行政だけでなく契約者である親が主体的に使用ルールを家庭で決める必要があること、茨城県ではPTAが中心となって行政とともに県メディア教育指導員制度を立ち上げ、指導員が県内各地で活躍していること、等々でした。

耶麻地区の三七単PからPTA代表者や学校関係者一四六名の参加があり、インパクトのある有意義な研修会となりました。

またその発展として、地区内の単Pでも堤氏をお呼びして講演会を行った例や、県P評議員会でも堤氏をお迎えして研修会を行うに至ったことが挙げられます。

また本協議会は、来年度の県PTA研究大会喜多方大会の準備委員会を務めていることもあって、このような思いを大会テーマや趣旨にも込めて、全県に発信したいと思っております。乞うご期待！



「ケータイ・インターネットの危険性」について堤氏講演会

「他ならぬ親が教師が…」という思いで、学校を核とした地域の子育て文化を共に再創造していきましよう。

PTA活動充実のための 研修活動 「子と親とが共に育つ PTA活動を」

いわき市PTA連絡協議会会長
根本 紀太郎

いわき市PTA連絡協議会は、一二方部一二二単位PTAで構成されています。今年度、県PTA研究大会を開催するにあたり、次のようなねらいのもと分科会を各方部で担当し、企画運営にあたりました。

一、ねらい
少子化や価値観の多様化等社

会環境が変化する中で、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化してきた。児童虐待やいじめ、登下校の安全確保等子どもの生活を脅かす問題、あるいは、非行・不登校の問題も深刻化してきた。その中で、「生きる力」の育成をはじめ、共生の指導への対応は学校教育だけでなく、家庭・地域の教育力の負うところも多く、PTAの果たす役割は極めて大きくなってきました。これらの課題を主体的に受け止め、研修を深めることにより、子どもたちの未来のつながる活力あるPTA活動を推進することをねらいとしました。

二、活動上工夫した点

いわき市PTA連絡協議会は一二の方部PTA連合会より構成されている。そのため、一二方部七つに分け、それぞれ、第一分科会（四倉久之浜・小川・川前）、第二分科会（好間・三和）、第三分科会（常磐・市連P母親委員会）、第四分科会（内郷）、第五分科会（勿来）、第六分科会（遠野・田人）、第七分科会（小名浜）を担当してもらいました。

企画運営に当たり、数多くの参加者が発言しやすくそれぞれが各単Pに持ち帰って役に立つようなものにする心を心がけ、グループトークングやバス

セッションを多く取り入れ参加から参画型を合い言葉に行いました。

●第三分科会より

常磐方部連Pと市連Pの母親委員会が担当したこの分科会では、より多くの方々に意見を発表してもらうため、参加者を七、八名に分けバズセッション形式で二つのテーマを設定し、一人必ず一回は意見を発表することに行いました。

三、活動の成果

① いわき市は、広域であるためややもすると各単P間の横の繋がりが希薄になりがちであるが、各分科会をそれぞれの方部連Pで受け持ち、企画運営することで横の繋がりが増しました。また、方部連P内の各単位PTAよりいろいろな意見等が出され、内容等が充実した会になり、参加したPTA会員の研修が深まりました。

② これらの活動を通して、このような研修会を行おうという単位PTAも出てきました。



親の目の届かないケータイの危険

福島県PTA連合会
健全育成委員長 浪岡真澄

便利になった現代社会の中で、そのしわ寄せが子ども達の生活に影響を及ぼしています。特にこの数年、携帯電話の普及により子ども達がメディア犯罪に巻き込まれるケースが多くなっており、

今、全国で携帯の所持率は、中学生三二%、高校生三八%に上り、それと平行して出会い系サイトによる犯罪被害、有害サイトへのアクセス、ネットいじめ、チェーンメールなど多くのトラブルが発生しています。親は、いつでも連絡が取れ、いざという時に役にたつからと安全、安心を携帯電話に依存していませんか？しかし子どもは、持っているという自慢で、メールをしないと仲間に入れないなど親と子どもの使用目的が違ってきます。

福島県PTA連合会で行ったアンケート結果を集計を見て、携帯電話の所持率が小学生で一六%、中学生で三〇%と全国平均に近い数字となっています。また、それに伴い小、中学生ともに五%がタブレットに巻き込まれています。

お父さん！お母さん！
お子さんのケータイ・ネットの利用は大丈夫ですか？
「ネット上のいじめ問題」に対する喫緊の提言について
平成19年12月27日
子どもを守り育てる体制づくりのための有識者会議

急速に子どもたちの間に広がっている携帯電話のメールやインターネットを利用した「ネット上のいじめ」が最近問題となつています。子どもを守り育てる体制づくりのため有識者会議から、子ども

たちの携帯電話やインターネットの利用の実態の把握に努め、「ネット上のいじめ」防止に向けて、現段階において早急に取り組むべき四つの提言が発表されました。

第31回子ども災害事故防止習字・ポスターコンクール
三十一回を数えた今回も、温かいご支援とご協力をいただき開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。

一 知っていますか？
子どもたちが利用できる携帯電話・ネットの中身を、教えませんか？
携帯電話・ネットの危険性を「利用の実態」に目を向けよう！

二 約束しましたか？
携帯電話・ネットでは知らないことを、親子で学びましたか？
「情報モラル」について、「情報モラル」についてしっかり学ぼう！

三 聞いてみましたか？
お子さんが「ネット上のいじめ」で悩んでいるかを、学校と連携して実践していますか？
携帯電話・ネットの間違った利用をチェックする活動を「チェック体制」を強化しよう！

四 学校と相談していますか？
携帯電話・ネットによるいじめがあつたときにしなければいけないことを、「いじめられた子ども」を守り通そう！

これらの提言について、それぞれの家庭で、お子さんの安全を守るために、再確認してみてください。

▼小学校の部

◆最優秀賞《一年》今野朱理(高平)《二年》阿部未幸(小名浜一)《三年》佐藤由紀(五箇)《四年》目黒夏帆(柏城)《五年》大東千夏(棚倉)《六年》高島誠生(杉田)

◆優秀賞《一年》遠藤滉斗(安積三) 佐藤真衣(五箇) 宮下絵美里(小名浜一)《二年》伊藤彩花(杉田) 野崎未来(柏城) 鈴木知紗美(白河三)《三年》宮下真結子(緑ヶ丘一) 樋口葵生(須賀川二) 矢吹郁(三神) 鈴木恋華(謹教) 神戸美紅(相馬・飯豊)《四年》本間涼斗(白河三) 佐藤春佳(五箇)

◆優良賞《一年》松本彩里(杉田) 吉田チヒロ(喜多方二) 遠藤恵利

香(相馬・飯豊) 水野麻衣(平三)《二年》宗像康誠(安積三) 根本いずみ(小原田) 橋本悠衣(小塩江) 佐藤矩希(棚倉)《三年》佐

習字の部入賞者

審査の先生方(敬称略)
○習字
佐藤 一男(元清明小教諭) 丹治 英郎(元福田小校長) 鈴木 幸子(元蓬萊小教諭) ○ポスター
武田 德行(元渡利小校長)

大川 佐藤由紀
▲小3年 五箇小 佐藤 由紀さん

道具 高島誠生
▲小6年 杉田小 高島 誠生さん

整理 荒木涼一
▲中3年 沢田中 荒木 涼一さん

県PTA連合会健全育成委員会

子どもの携帯電話所持等に関するアンケートを実施

昨年十二月に、県下の郡市P連に依頼して会員の1%以上を抽出し実施しました、携帯電話につ

平成19年度 「子どもの携帯電話所持等に関するアンケート」

福島県PTA連合会健全育成委員会

このアンケートは、小・中学校の携帯電話所持や使用の状況について調査し、全国的な問題とな

アンケートの質問内容と回答欄。1. 携帯電話の所持について、2. 携帯電話使用について、3. 携帯電話に関する社会的な問題について、4. 広く、子どもの携帯電話使用に関する意見、提言等、何でも結構です。でお書きください。

ご協力ありがとうございました。

ポスターの部入賞者

小学校

- 久間未来(杉田) 古閑大輔(桃見) 台(二瓶) 結(柏城) 和知唯果(羽太) 大竹由子(喜多方二) 佐々木優夏(中央台東) 小松大知(久ノ浜一) 《四年》 菅野朱音(庭塚) 若狭知夏(安積三) 遠藤亜美(緑ヶ丘一) 佐藤理史(須賀川二) 本多結(中郷) 添田雅子(磯部) 伊佐友宏(平二) 《五年》 安部瑠莉(福島三) 関根謙志郎(須賀川・大森) 渡辺桃香(御木沢) 長久保南美(夏井一) 中森悠夏(喜多方二) 齊藤玲子(平三) 青木佑夏(久ノ浜一) 《六年》 鈴木桃香(須賀川二) 熊田望希(須賀川三) 渡部晴香(城

- 最優秀賞 《一年》 鈴木 廉 《二年》 皆川皓紀 《三年》 佐藤柚子(喜多方二) 《四年》 小野田清美(小川) 《五年》 緑川光里(仁井田) 《六年》 駒木根香住(いわき・泉)

- 優秀賞 《一年》 但野奈津美(原町一) 《二年》 斉藤由真(磐崎) 《三年》 小針綾香(柏城) 《四年》 星奈々子(館岩) 《五年》 本泉巨石(五百川) 《六年》 有馬佑哉(柏城)

- 優良賞 《一年》 水野谷元



▲小2年 謹教小 皆川 皓紀さん



▶中3年 矢祭中 小濱 宏美さん

中学校の部

- 西) 鈴木貴未華(城北) 菊地茉莉(長瀬) 遠藤佳菜子(岩月) 佐藤有沙(好間二)
- 最優秀賞 《一年》 坂本千晶(棚倉) 《二年》 菅野恵美理(福島・吾妻) 《三年》 荒木涼一(沢田)
- 優秀賞 《一年》 曾我郁美(桜) 《二年》 馬場沙織(伊南) 《三年》 本杉衣里(伊南)
- 優良賞 《一年》 橋本香奈子(二本松一) 《二年》 遠藤千晶(東北) 《三年》 大原麻弥(西袋)

中学校

- 貴(滑津) 《二年》 渡邊麻稀(夏井一) 《三年》 飯杉宏希(日立木) 《四年》 上遠野優一(鶴城) 《五年》 座間勇希(須賀川一) 《六年》 鈴木彩(喜多方二)
- 最優秀賞 小濱宏美(矢祭 三年)
- 優秀賞 小林彩香(石川 三年)
- 優良賞 和田真美香(矢祭 三年)

平成20年度研究大会等の予定

月	主 な 行 事	
6	県P小・中別懇談会	27日 (金)
8	日P研究大会かがわ讃岐路大会	23日 (土)・ 24日 (日)
	県P母親代表者懇談会	28日 (木)
9	東北P研究大会盛岡大会	6日 (土)・ 7日 (日)
10	県P研究大会喜多方大会	19日 (日)

※今年度は、一日開催となります。

「携帯電話についてのアンケート」を実施しましたが、詳しい結果の報告は、次号でいたします。

子どもたちは、携帯(ケータイ)を電話としてよりも情報取得や情報発信の機能として多く利用しています。

「危険性を知らずして、子どもにケータイを渡すべからず」といわれます。二月からはフィルタリングを付けて販売されるようになりましたが、お子さんの携帯には、フィルタリングがきちんと付けられていますか。もう一度ご確認を!

(T・H)

編集後記

福島県・福島県交通対策協議会は、交通事故の撲滅を期するため、交通安全は家庭からの認識のもと、すべての人が、それぞれの立場で守ることを「交通安全家庭のちかい」として決めました。

福島県交通安全家庭のちかい

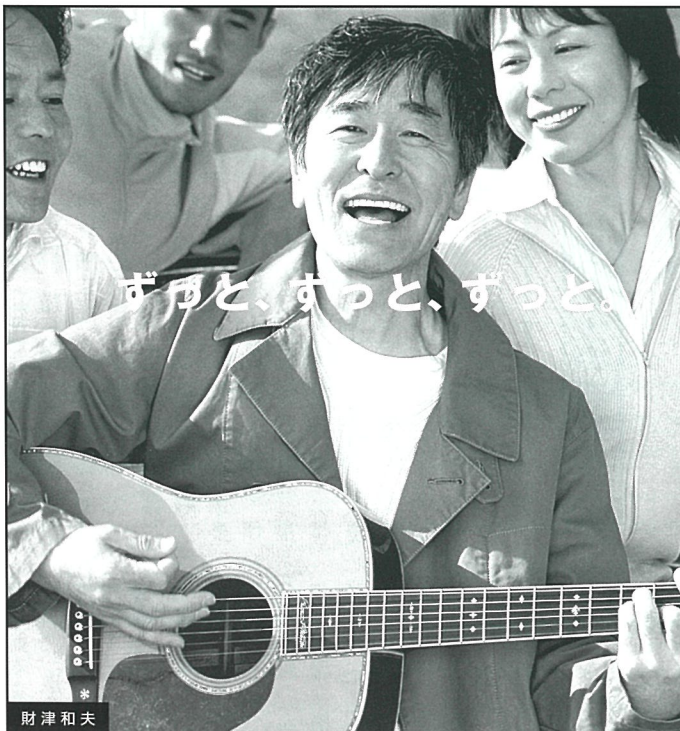
主唱 福島県・福島県交通対策協議会

- 1 道路をわたるときは必ずとまり、左右をよく見ます
- 2 車のすぐ前、すぐ後ろはわたりません
- 3 交差点では必ず安全を確認めます
- 4 自転車に乗る時も交通ルールを守ります
- 5 シートベルト・ヘルメットは必ずつけます
- 6 飲酒運転は絶対にしません
- 7 思いやり・ゆずり合いの心で運転します

[第24回福島県交通安全県民大会
(昭和60年10月29日) 決議]

— 交通安全は家庭から —

各家庭においては、このちかいを中心に交通安全について話し合いましょう。



財津和夫

共栄火災

ずっと心に残る歌を歌っていたい。
ずっと楽しい仲間と一緒にいたい。
ずっと走り続けていきたい。

しかし、人生という長い時間の流れの中には
誰かに守ってもらわなければならないときがある。

僕には、ずっととなりで支えてくれる人たちがいる。
だから、前に進んでいける。

あなたのとなりに。
あしたのとなりに。
共栄火災

ロングで安心。
最長5年契約が可能な自動車保険プラン

ちょうき安泰

共栄火災海上保険株式会社
http://www.kyoeikasai.co.jp

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》共栄火災海上保険株式会社 〒960-0231 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル2F
TEL 024-554-3006(代) FAX 024-554-3025